

日立のCloud on-Rampをサービス化したSMB向け「クラウドバックアップサービス」を提供

株式会社 日立システムズ ▶ <http://www.hitachi-systems.com/>

企業が扱うデータ量が増加する中、事業継続やコスト低減の観点から、オフィス文書やメール、画像といったコンテンツデータの効率的なバックアップが重要な課題となっています。そこで株式会社 日立システムズ（以下、日立システムズ）は、日立の仮想ファイルプラットフォーム「Hitachi Virtual File Platform」^{バーチャル ファイル プラットフォーム}（以下、VFP）と大容量ファイルストレージ「Hitachi Content Platform」^{コンテンツ プラットフォーム}（以下、HCP）を適用したコンテンツデータのクラウドへのバックアップソリューションCloud on-Rampをサービス化した「クラウドバックアップサービス」を開発。バックアップ運用の負荷軽減とBCP※1対策を両立したサービスを、SMB※2のお客さま向けとパートナーとの協業ビジネスの両面から展開しています。

※1 Business Continuity Plan:事業継続計画 ※2 Small and Medium Business:中堅・中小企業

Platform & Solution case study



株式会社 日立システムズ
クラウド・DC事業グループ
インフラクラウド事業推進プロジェクト
インフラクラウド事業推進部 担当部長
新貝 知晃 氏



株式会社 日立システムズ
クラウド・DC事業グループ
インフラクラウド事業推進プロジェクト
アライアンス事業推進部 部長
中津 耕一 氏



株式会社 日立システムズ
クラウド・DC事業グループ
アウトソーシングセンター事業部 設計本部
第二アウトソーシング設計部 主任技師
鷲頭 敏昭 氏



株式会社 日立システムズ
クラウド・DC事業グループ
アウトソーシングセンター事業部 設計本部
第二アウトソーシング設計部 技師
武藤 慎吾 氏

クラウドへのバックアップが容易な Cloud on-RampをSMB向けにサービス化

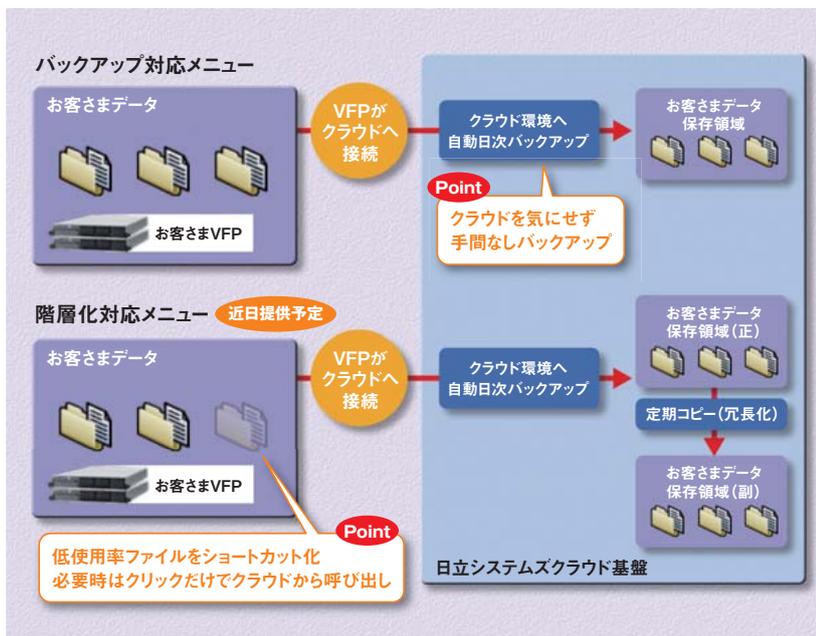
日立グループにおける情報・通信システム事業の中核企業である日立システムズ。同社は「Human*IT」という事業ブランドのもと、世界につながる“人財”と先進の“情報技術”を組み合わせた独自のサービス創造を担うグローバルサービスカンパニーをめざし、ビジネスを国内外で幅広く展開しています。

なかでも日本全国に擁する多数のデータセンターやサービス拠点を活用したSMB向けのクラウドソリューションでは高い評価を獲得しており、お客さまのニーズにきめ細かく対応した豊富なソリューションとサービスメニューがラインアップされています。

「そこに今回加わったのが、お客さまの事業拠点に設置したVFPと当社データセンターに設置したHCPが連携する、新しいクラウドバックアップサービスです」と語るのは、クラウド・DC事業グループ

インフラクラウド事業推進プロジェクト インフラクラウド事業推進部 担当部長の新貝 知晃氏です。

「当社はこれまで、データセンターにプールされた仮想サーバ/ストレージのリソースを柔軟に提供するリソースオンデマンドサービスを提供してきました。しかしコンテンツデータの大容量化が進むなか、より低コストかつ簡単にデータのバックアップを行いたいというお客さまニーズが増えてきたことから、導入が容易で運用も自動化できる大容量オンラインストレージという切り口で、新サービスを模索していました。その方向性と日立のCloud on-Rampのコンセプトが合致したため、協業によるサービス化に踏み切ったのです」と新貝氏は続けます。



日立システムズに導入されたクラウドバックアップサービスの概要

適正なコストで日々の業務バックアップを自動化

年々大容量化するコンテンツデータの課題を解

Platform & Solution case study

決するため、日立は企業の事業拠点に設置したVFPをCloud on-Ramp(クラウドへの入り口)と位置づけ、そこに書き込まれたデータを自動的にデータセンターのHCPにバックアップ/アーカイブするソリューションを提供しています。既存NASの限界を打ち破るシステムとして開発されたVFPは、クラウド上でファイルを仮想化することで、散在する複数のファイルサーバを集約し、拠点側での運用管理の負担を軽減。また、拠点災害などによってVFPが使用不能になった場合も、HCP(センター側)のバックアップデータから迅速にデータを復元することができます。さらにHCPはテナント(仮想的に分割された領域)ごとの不正アクセスを防止する機能も備えているため、複数拠点/会社のデータをセキュアかつ適正なコストで保全することが可能です。こうしたCloud on-Rampの実現により、ユーザーは社内に散在していたNASやファイルサーバの統合に加え、業務に専念しながらデータの保全性や事業継続性を高めることができますようになります。

「今回提供するサービスでは、お客さま先にVFPを導入していただくだけで1TBから始まるストレージリソースの低コストかつオンデマンドな提供とHCPによるバックアップ運用を、すべて当社が担当します。VFPは既存のファイルサーバとも連携できるため、これまでの業務を継続しながらデータを順次移行していける利便性も備えています。クラウド上に常に最新のバックアップデータを保管しておきたいと考えるSMBのお客さまには最適なソリューションではないでしょうか」と、クラウド・DC事業グループ アウトソーシングセンタ事業部 設計本部 第二アウトソーシング設計部 主任技師の鷲頭 敏昭氏は自信を見せます。

パートナーによるビジネス展開もスタート

このクラウドバックアップサービスは、日立システムズからユーザー企業への提供だけでなく、ビジネスパートナー経由での商流展開もスタートしています。

「この協業ビジネスでは、エンドユーザーであるお客さま先へのVFP導入とシステム設計・構築などのSIサービスをビジネスパートナーが担当し、当社はHCPの設定や障害対応を受け持つ役割分担となります。バックエンドのストレージとクラウドサービス、それに伴う保守業務を当社が受け持つことで、ビジネスパートナーは初期投資が不要となるほか、エンドユーザーのニーズに合わせたきめ細かなストレージサービスを独自にアレンジしながら開発できるため、それぞれにメリットをもたらすWin-Winのビジネスが展開できると確信しています」と、クラウド・DC事業グループ インフラクラウド事業推進プロジェクト アライアンス事業推進部 部長の

中津 耕一氏は説明します。

直販だけでなくパートナー経由のサービスでも、万一の障害発生時には全国に広がる日立システムズならではの保守サービス網が24時間体制で対応するため、安心面でも不安はありません。

サービスメニューと拠点の拡充も計画

当初は各企業のファイルシステムのバックアップ用途からスタートするクラウドバックアップサービスですが、今後は「Cloud on-Rampならではのデータのティア(階層)化を実現するソリューションも提供していく予定です。単純なバックアップ用途だけではなく、VFPに蓄積されたデータの中でアクセス頻度の低下したものをHCPに自動的に移動することでVFPとHCPによるストレージの階層化を行い、日常よく使うデータに対するレスポンスの低下を防ぎ、より大容量のデータを効率よく活用していただけるサービスです。こちらもビッグデータ時代には不可欠なソリューションになっていくと思います」とクラウド・DC事業グループ アウトソーシングセンタ事業部 設計本部 第二アウトソーシング設計部 技師の武藤 慎吾氏は語ります。

クラウドバックアップサービスは現在、バックアップ先となるHCPを東日本エリアの高信頼なデータセンターで運用していますが、将来的には西日本エリアのデータセンターにもHCPを設置して、相互のデータレプリケーションによるディザスタリカバリ体制を一段と強化していく計画です。

ビジネスパートナーと連携しながら、適正なコストでユーザー企業の情報資産を強固に守り、業務効率と事業継続の向上をサポートする日立システムズ。その積極的なクラウドサービス展開を、これからも日立製作所はVFPやHCPに代表される高信頼なストレージ製品群の提供とソリューション強化により、力強く支援していきます。



日立システムズのデータセンターに設置された「Hitachi Content Platform」。現在はトータルで100TBの容量を確保している

お問い合わせ先

HCAセンター

☎0120-2580-12

利用時間 9:00~12:00、13:00~17:00(土・日・祝日を除く)

情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/storage/>